

新港区教育史の構成について

○ 新港区教育史の構成（案）

(1) 港区教育史（通史編）【加筆修正】

（約 1600 頁、B5、モノクロ）

既刊の港区教育史（上・下巻）（資料編一・二巻）を再確認し、必要に応じて文章を修正するとともに、平成期を中心に新たに確認された史実について加筆します。

(2) 港区教育史（分野別編・資料編）【加筆修正】

（約 1800 頁（1500+300）、B5、モノクロ）

新たに編さんする通史としての教育史を、教育行政、初等教育、中等教育、幼児教育等の教育分野別に再編します。

また、編さんする教育史に関する資料や付表を、資料編として取りまとめます。

(3) 港区教育史 暮らしと教育編（仮称）【新規】

（約 400 頁、A4、一部カラー刷り）

教育は、学校での知識や技能の習得のみならず、生涯教育においても人間性の涵養等に重要な役割を果たしており、幼児期から高齢期まで生涯にわたり私たちの日々の暮らしに密接に関係しています。

また、学校は常に子どもたちの健やかな成長願う地域の方々に支えられ、充実した環境の下で教育活動を実践しており、学校の歴史は地域とともに築き上げられています。

このことから、港区の教育の歴史を子どもや保護者、地域の方々の視点から再確認し、その変遷について特徴的な事例を取りまとめ、多くの方に教育を身近なものと感じていただける契機となるよう、「港区教育史 暮らしと教育編（仮称）」を新たに編さんします。

編さんした「港区教育史 暮らしと教育編（仮称）」は、一般頒布を行い、広く区民に手に取ってもらうとともに、ICTを使った授業等で教材として使用できるようWEB版の活用を図ります。